

様

「学びをひろげる」第5・6回の研究会の報告をしていただきありがとうございました。忙しいなか研究会に参加していただき、報告の時間も十分取れなかつたこと申し訳有りません。報告していただいた内容、今の教育を考える中でとても貴重な意見でした。今後の研究会に生かしていきたいと思います。遅くなりましたが、お礼とご報告をさせていただきます。

第5回・6回研究会の報告

研究会に参加されている若い人の発言の中に、昔と違う現場の様子・悩みを感じ、事務局では研究会を進めるにあたって、やはり現場から学ぼうということで、2回にわたって『今、若い教師たちが語る学校とは……』というテーマで若い人たち（初任から10年まで）に語ってもらいました。

若い人たちの思いが限られた時間のなかで十分語っていただけなかつたのですが、様々な市・学校、経験年数の違いがあつてもそれぞれの報告内容・後の意見交流を通して、共通した課題が見えてきました。

安易な若者批判・現場批判、たとえば自分の意見を言わない、まわりを気にして自分のやりたいことをしない等、それが若者の思いをしっかりとらえず、今現場がどうなつてゐるかを見ていなことがわかりました。

ここに来て報告していただいた人そこにつながつてゐる人たちは、子どもたち一人ひとりにしっかり向き合い、なんとかしたいと思っている人でした。

報告から

共通している悩みは、時間がない。そして、教職員たちが同じ方向を向きながら学校づくりが出来なくて孤立化している。授業では、学校・教師によってスタイル（一斉授業、話し合いを大切にする）が違つてゐる。さらに教師によって授業ルールが変わるので、子どもたちは、年度当初は混乱している。友達・先生の話を聞く、自分のことを語ることが苦手な子どもたちが増えている。さらに、つながることが苦手な子どもが多いので遊びを教師が仕掛けなければならぬ。日々の授業が、指導書にたよつてしまふが、少しでも子どもに興味を持ってもらうために授業の準備をするが、学校での会議、報告書等のため時間がない。さらに、子どもと触れ合う（遊び、学習）時間も持てない。

事務局では、子どもたちが友だちと関わり合う（友達の考え方を聞き、自分の考え方を語る）授業が出来ないか、そんな授業スタイルを追求していくこと、また子どもが興味を持つそんな教材をつくりあげていくことが大事だと確信しました。そして、教育を取り巻く状況を見つめ批判していくこともおこなつていかねばならないと思いました。

次回の研究会の案内も送らせていただきます。ぜひ、ご参加下さい。

2014年10月14日

「学びをひろげる」事務局